

4月7日(火)に始業式、翌8日(水)には入学式が行われました。新入生は、中学生が60名、高校生が410名となり、全校生徒1,086名で新年度がスタートしました。とくに高校生の入学者が増えたのは、今年度から始まったいわゆる”高校授業料無償化”ということも一因ではありますが、それ以上に本校の認知度が高まったことの表れではないかと思っています。嬉しいことです。

9日(木)からは新年度開始のためのオリエンテーションが行われ、校長講話をはじめ、学年開きや授業ガイダンスなど、「いい準備」期間となりました。新入生はどの時間も真剣な眼差しでオリエンテーション期間を過ごしましたが、緊張感が途切れることのない状況が続きました。

(右の写真は、新入生470名を迎えた入学式の様子)



## 「清く、高く、大きく、自分を磨く」

4月7日(火)の始業式で、在校生に向けて以下のような話をしました。

先日、岩手県遠野市の実家の片付けをしていたら、通信簿や手紙、小学校のアルバムなどが入っていた箱を見つけました。その箱の中に一通のハガキがありました。文末に「1977・3・12 花巻市二枚橋町 駿河昭雄」とあり、49年前のハガキであることを確認しました。それは、私が高校卒業時に中学校3年生の担任である駿河昭雄先生からいただいたハガキでした。そのハガキを紹介します。

御卒業おめでとう。

君達は勿論のこと、御両親もさぞお喜びのことと思います。

さて、一休みしたなら、草鞋をはきかえ、しっかりと大地に立ち、心を引き締め、それぞれの新しき道に元気な第一歩を踏み出してほしいと思います。

その行手には、いろいろと苦勞が待っていることと思うが、その苦勞を、これからの「先生」だということです。そして、ゆるゆると、而も、倦まずに。人を容れて、而も、己を失わず。どこまでも、清く、高く、大きく、自分を磨き上げていってほしいと思います。卒業のお喜びに、はなむけをと思いペンをとりました。健康に留意されて、今後、益々御活躍されることを祈っております。

1977.3.12 花巻市二枚橋町 駿河昭雄

「ゆるゆると、しかも、倦まずに」とは、難しい表現ですが、「ゆっくりでいいよ、でも、あきらめないで」とい

う意味に私は解釈しています。

このハガキは、「君達は」という言葉から、駿河先生が担任であった生徒全員に送られたものです。中学校を卒業しても、我々の門出を想って気遣っていただいた先生のお気持ちに感謝しかありません。

私は中学校の頃から教師になりたいという夢を持っていましたが、その夢を現実のものに導いてくださったのが駿河先生でした。先生のすべての振る舞いに感動し、「よし、先生のような教師になろう」と決意しました。「どこまでも、清く、高く、大きく、自分を磨き上げていってほしい」という言葉を、今、改めて噛みしめています。このハガキは、私の宝物です。49年前のハガキに偶然にも再会することができました。このハガキをフレームに入れて、校長室の机の上に置いています。ときどきこのハガキを見ながら、己を鼓舞しています。

以上が始業式で話したことです。

さて、私はこれまでにかけがえのない3人の先生との出会いがあります。小学校・中学校・高等学校のそれぞれの先生です。小学校の川守先生からは、「失敗なんか気にするな」と、常にポジティブであるべきことを学びました。始業式で触れた中学校の駿河先生からは、「相手の気持ちを考えて行動すること」と、人は他者を認めることで共存できるということを学びました。そして、高校のサッカー部の顧問である柴田先生からは、「控えの仲間がチームを支えているんだ」と、裏方の仲間の努力を見過ごしてはチームはまとまらない、ということ学びました。

こうした先生方との出会いがあって教師という職業を意識し、駿河先生によって導かれたのです。

教師生活42年目、机上のハガキを見ながら、新たな気持ちで「清く、高く、大きく」自分をもう少しだけ磨き続けていこうと思っています。